

SuperDARN 及び EISCAT による電離圏人工励起沿磁力線不規則構造の観測 (4)

SuperDARN and EISCAT observation of artificially induced field aligned irregularities (4)

行松 彰 [1]; 西村 耕司 [2]; 小川 泰信 [3]; 堤 雅基 [3]; 佐藤 夏雄 [3]; Rietveld Mike T.[4]; Wright Darren[5]; Yoeman Tim[5]; Lester Mark[5]

Akira Sessai Yukimatu[1]; Koji Nishimura[2]; Yasunobu Ogawa[3]; Masaki Tsutsumi[3]; Natsuo Sato[3]; Mike T. Rietveld[4]; Darren Wright[5]; Tim Yoeman[5]; Mark Lester[5]

[1] 極地研宙空圏 (併 総研大極域科学); [2] 情報・システム研究機構; [3] 極地研; [4] マックスプランク・超高層物理、EISCAT; [5] レスター大学

[1] NIPR (SOKENDAI, Polar Science); [2] TRIC, ROIS.; [3] NIPR; [4] MPAE, EISCAT; [5] Univ. Leicester

SuperDARN 短波レーダーは、斜め方向に送信された短波帯パルス状電磁波の (レーダー送信波長の半分の空間スケールを持つ) 電離圏沿磁力線不規則構造 (FAI) からの後方散乱波を受信し、電磁波散乱域における電磁流体のレーダーからの視線方向のドップラースペクトルを測定する観測装置である。ドップラー速度が、プラズマの大域的な速度と一致すると考えられることから、極域の広大な範囲の主に電離圏 F 層のプラズマ対流、或いは、電離圏電場といった基本的物理量を観測することが可能で、電離圏~磁気圏の研究に大きな貢献をし続けてきた。しかし、レーダー波の散乱体である FAI については、その生成消滅過程等は、未だに十分に解明されていない。EISCAT では、Tromso に大電力の電離圏加熱装置 (ヒーター装置) があり、これにより、人工的に電離圏を加熱し、FAI を発生させることができる為、FAI の生成消滅機構の研究が盛んに行われてきた。我々も、Tromso 加熱装置上空を観測視野におさめる、CUTLASS Finland 及び Iceland East SuperDARN レーダー、及び、EISCAT Tromso UHF レーダーを用いて、この研究を進めつつある。

SuperDARN レーダーは、従来、不等間隔マルチパルス法により、受信信号の自己相関関数 (ACF) を求めることで、ドップラースペクトルを求めてきた。Yukimatu and Tsutsumi, GRL, 2002 では、これを改良し、全 IQ サンプルデータも記録し、マルチパルス法による観測レンジ以外のレンジからの信号の影響 (cross range noise) を除去した上で、各レンジにおける受信信号の生時系列解析 (TMS 法) を可能とし、流星風観測の高精度化を図った。この新しい TMS 観測・解析手法を電離圏 FAI 観測に応用することで、高時間分解能での FAI 観測を行った。通常の単一周波数による高時間分解能 FAI 観測により、ヒーターエコー強度振幅が、数 Hz 程度で大きく変動していること、また、位相の「跳び」が同程度の間隔で断続的に発生していることが見出された。また、ドップラースペクトルや ACF の高時間分解能の観測を行うことで、FAI のドップラースペクトルに、比較的短い相関時間の成分と、10 秒或いはそれ以上の長い相関時間を有する、3 種類の異なるスペクトル成分が、同一加熱領域に共存していることが初めて同定され、ヒーターの ON/OFF 直後で各成分の振幅が異なることも明らかとなった。これらは、FAI の生成消滅過程の研究に重要な知見をもたらすものと考えられる。

エコー強度振幅の大幅なへんどうが、単なる fading によるものか、観測レンジ内での、比較的少数の孤立波的 FAI の干渉によるものか等を調べる為、上記観測手法に更に改良を加え、多周波による周波数領域干渉計 (FDI) 観測法を、SuperDARN レーダーに初めて適用し、また、EISCAT UHF レーダーの特別観測モードによる加熱域の 2 次元高時間分解能詳細観測も行った。EISCAT UHF レーダー観測では、加熱領域が 2 次元で明瞭に捉えられ、一部でエコー振幅強度の短時間変動が観測され、イオン音波擾乱の発生が示唆された。多周波 FDI 法の問題点を克服するべく、通常マルチパルス法の代わりに、シングルパルス又はダブルパルス法を用いた FDI 法も実施した。FDI 観測手法の初期位相の決定等、現在の問題点に主眼を置き、この観測モードの、最適な FAI 観測について議論を更に深め、また、EISCAT 観測結果と SuperDARN 観測結果との比較検討についての議論を行う。